

『遠い声がする 渋谷直人評論集』

《好評既刊》

実存を賭けて読み、思考する
知られざる批評家、唯一の評論集

戦後に抱え込んだ自己の崩壊感覚に立脚し、島尾敏雄、大江満雄、金井直らの作品から、時とともに置き去りにされかねない思想をひとつひとつ拾い上げる文学批評集成。

遠い声がする

著者略歴 渋谷直人 (しぶやなおと)

1926年生まれ。1945年8月、日本海軍(内地分遣隊)から復員。故郷・山形県米沢市へ帰還した日、父死す。次兄はフィリピン・レイテ島、カンキポット山で戦死。早稲田大学教育学部卒業。東京都豊島区東長崎に住み、詩人・大江満雄の知遇を得る。この頃、文芸誌『存在』『氷河』同人。川崎市立中学校教諭を経歴。『秧鶏』『風嘯』等に詩や小説、評論を発表してきた。著書に『鳥と魚のいる風景』(近代文藝社、1982年)、『大江満雄論 転形期・思想詩人の肖像』(大月書店、2008年)、『夕暮れの走者 渋谷直人詩文集』(編集室水平線、2021年)、編書に『大江満雄集 詩と評論』(共編、思想の科学社、1996年)がある。

* * *

目次より——遊行者の孤独／〈逃走〉のエチカ／〈精神＝生理の変換式〉の探究者／憑依者たちの交響世界／存在の凹みで／……

渋谷直人評論集

貴店名・帳合	注文数	発行：編集室 水平線 TEL&FAX：095-807-3999
		遠い声がする
		渋谷直人評論集
		四六判並製／232頁／定価 [2,000円+税]
ご担当者様	冊	ISBN 978-4-909291-02-8 C 0095

ご注文は JRC へ → FAX 03-3294-2177

※返品条件つき注文扱い